

【特別研修・在外研究成果報告書】

研究者	所属・職位	氏名
	総合グローバル学部・教授	眞城百華
研究課題	アフリカにおける紛争と女性のエージェンシー：女性解放と連帯	
特別研修期間	2022年度 秋学期 ～ 2024年度 春学期	
在外研究期間	2022年 11月 5日 ～ 2024年 9月 19日 (629日間)	
主な研究機関 又は場所	南アフリカ (ケープタウン大学)、イタリア (パヴィア大学)、エチオピア	
研究成果の概要		
<p>今次、特別研修ならびに在外研究では、「アフリカにおける紛争と女性のエージェンシー：女性解放と連帯」（科研費・国際共同 A、20KK0283）に関する研究を実施するために、主に南アフリカ・ケープタウン大学ならびにイタリア・パヴィア大学を拠点に研究を行った。</p> <p>1970年代～80年代にかけて紛争を経験し、90年代に政権交代を果たした南アフリカならびにエチオピアにおける紛争に関与した女性たちのエージェンシーに着目し、紛争下で政治や社会の変革に寄与した女性たちの経験が紛争後社会にも重要な影響力を及ぼした点を政治や社会史の文脈で明らかにすることを目的とした。紛争後 25年以上が経過するこれらの国における戦中と戦後を架橋する女性のエージェンシーに注目する本研究は、アフリカにおける紛争研究・平和構築研究を捉えなおす研究となる。さらに比較の文脈だけでなく同時代のアフリカ女性の連携と連帯という新課題を設定してアフリカ女性の関係性についても検討を行い、紛争下のアフリカ女性による「女性解放のための連帯」というアフリカ女性史の主要課題も検討することを目指した。</p> <p>南アフリカでは、ケープタウン大学に滞在し、Faculty of Humanity、政治学部の Scanlon 准教授を受け入れ先として、南アフリカにおける反アパルトヘイト闘争ならびにその後のポストアパルトヘイト社会における女性の役割や抱えた課題について研究を行った。アフリカ民族会議（ANC）の武装部門であった「民族の槍（MK）」の女性兵士であった女性たちに対するインタビュー調査を、ケープタウンならびにヨハネスブルグにおいて実施した。反アパルトヘイト闘争期の在外拠点における軍事訓練や国内での活動の経験に加えて、戦後の女性兵士の経験、近年の補償や年金、支援をめぐる状況についても調査を行った。2020年頃から Veteran Association の再編と国防省管轄下への組み入れが行われ、それにとまなう支援拡充の要請、政府や党の対応についても調査を実施した。また 2024年の総選挙に先立ち ANC ならびに元 MK 兵士による集会が各地で開催され、一連の集会にも参加した。2023年年末には与党 ANC が分裂し、新党「民族の槍」が結成され、2024年総選挙において 58 議席獲得して国会において第 3 党となる躍進を見せた。戦後のヴェテランたちの補償を求める要望の高まりは、新党結党やその躍進と通底している。この点について、現在包括的な研究成果の取りまとめを行っている。また、受け入れ教員であった Scanlon 准教授を 24 年 11 月に上智大学に招聘し、共同セミナーの</p>		

【特別研修・在外研究成果報告書】

開催を予定している。

1970-80年代にアフリカの解放闘争に参加した女性組織の間で連携の動きや情報共有などが行われていた点についても南アフリカのアーカイブ史料に基づいて分析を行った。また南アフリカにおけるエチオピア・コミュニティの調査も実施した。

イタリアでは、ミラノ近郊のパヴィア大学を拠点にエチオピア・ディアスポラの研究を行った。80年代に内戦支援を行ったディアスポラの女性たちが主な調査対象となった。パヴィア大学は4名のアフリカ研究者が所属するが、2名がエリトリア、ソマリア、リビアと旧イタリア領植民地であった地域を研究し、エチオピア研究にも通じている。Prof. Zaccaria ならびに Prof. Morone と研究に関する議論を重ねつつ、エチオピア・コミュニティの調査を実施した。同大学をヨーロッパにおける調査拠点とし、ドイツ（フランクフルト）、スウェーデン（ストックホルム・マルメ）、イタリア（ミラノ、ローマ）において調査を実施した。その他、アメリカ（ワシントンDC）、ケニア（ナイロビ）においてもエチオピア・コミュニティの調査を実施した。

エチオピアの調査地が2020-22年11月まで内戦下にあったため、2022年-23年8月までは治安の関係で調査地に入ることができず、エチオピアの首都における文献渉猟と調査、また在外エチオピア・コミュニティの調査が中心となった。外務省による危険度の評価が下がったことを受けて2023年12月ならびに24年7-9月にはエチオピアの調査地であるティグライ州で調査を実施した。2年の内戦による州全体の荒廃や被害に加えて、女性兵士、女性協会や新設の女性NGOによる支援、農村部を含めた女性の被害（特にGBV）に関する調査を実施した。

一連の研究成果として以下があげられる。

発表

- (1) 眞城百華、「エチオピア・ティグライにおける女性兵士の経験—戦時下の女性解放と戦後への架橋」、日本ナイル・エチオピア学会第32回学術大会公開シンポジウム兼大阪公立大学女性学研究センター2023年度第27期女性学講演会「女性兵士が問いかける地平：エチオピア、ルワンダ、ソ連・ウクライナの事例から」、2023年4月15日、大阪公立大学
- (2) MAKI, Momoka, “Tigray Women Fighters and their Agency during the Ethiopia-Tigray War of 1975-1991”, African Studies Conference “African Women, Civil Wars, and Peacebuilding”, University of Maryland, Baltimore County, May 17, 2023

翻訳

・眞城百華・石原美奈子『エチオピアの歴史を変えた女たちの肖像』、上智大学出版会、2024年
報告書

・宮脇幸生・石原美奈子・眞城百華編『変貌するエチオピアの光と影：民族連邦制・開発主義・革命的民主主義の時代』2023年

その他、24年度中に上記の報告書を拡充させたエチオピア政治に関する論集の出版が予定されている。またエチオピアの女性兵士に関する書籍の出版、英語論文を投稿した英語論集の出版も24年度中に予定されている。

以上